

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 20 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593231

研究課題名(和文)現象学的看護研究の教育方法の確立

研究課題名(英文)Foundation of the educational methode of phenomenological nursing research

研究代表者

松葉 祥一(Matsuba, Shoichi)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：00295768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：看護学と哲学の研究者が協力して、現象学的看護研究の教育法の確立を目指した。この作業は研究方法の検討と同時に行う必要があった。そのため、現象学的研究を行っている研究者や院生に疑問点や問題点を出してもらい、それについて共同討議した。現象学的看護研究の教科書を出版するために、共同研究者各自の原稿を共同で討議した。現象学的研究の成果は普遍性をもちうるか、どのようにそれを評価するかといった理論的問題について、講師を招いて討議した。

研究成果の概要(英文)：The researchers of nursing science cooperated with the researchers of philosophy tried to establish the educational method for the phenomenological nursing research. It was necessary at the same time to examine the research method. We examined the problems and the questions raised by researchers and graduate school students practicing the phenomenological research. Preparing the textbook for the phenomenological nursing research, we examined the manuscripts of each participants. We discussed the theoretical issues raised by invited lecturer: could the results of phenomenological research have a universality; how can we evaluate the result of phenomenological research?

研究分野：哲学

キーワード：現象学 看護研究 質的研究 研究方法 解釈学

1. 研究開始当初の背景

現象学的看護研究は、北米において R. Parse や P. Benner らによって創始され、カナダやイギリス、オーストラリア、スウェーデン、韓国などで実践されるようになってきている。

日本でも、この研究方法には高い関心が集まっている。しかし、解説書のほとんどが、質的研究の一つとして手短かに説明しているにすぎない。それは、現象学的研究の場合、あらかじめ決まった研究手順を提示することができないので、研究方法について述べようとする事例を示す以外にないからだと考えられる。

ただ、これからこの研究方法について学ぼうとする人々に対して、決まった「手順」を示すことはできないとしても、現象学の基本となる考え方にもとづいて、研究の「指針」を示すことはできるのではないか。それはおそらく看護学と哲学の研究者が協力することによってのみ可能になるだろう。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護学と哲学の研究者が協力して、現象学的看護研究の教育法を確立することである。ただ、この作業には、現象学的研究の方法論の検討を必然的に伴う。研究者たちは、平成 21-23 年度の科学研究費補助金（基盤研究(C)）「現象学的看護研究の方法論の確立」（課題番号 21592712、研究代表者、松葉祥一）において、現象学的看護研究の方法論の確立を目指した。本研究では、この成果を基盤にして教育法を検討する。

の成果を現象学的看護研究のための教科書としてまとめる。

現象学的研究の方法論的探究と合わせて、現象学的研究の成果は普遍性をもちうるか、研究成果をどのように評価することができるかといった、基礎的、理論的問題について検討する。

以上の成果を広く知らせる。

3. 研究の方法

現象学的看護研究を実践している研究者や大学院生を研究会に招いて、研究上の疑問に答えたり、問題点を共同討議したりすることによって、教育方法を蓄積する。候補者は、学会や研究会で募ると同時に、ホームページ上でも募集する。こちらから依頼もしくは先方から依頼のあった研究者や大学院生を研究会に招き、共同研究者全員で疑問点や問題点について討議する。それによって、初学者が陥りやすい教育・指導上の問題点を蓄積し、解決策を提示する。

現象学的看護研究の教科書を共同研究者が分担執筆し、その原稿を共同討議することによって修正を行うと同時に問題点についての議論を深める。この教科書によって、現象学的看護研究のための方法論と教育方法を提案する。

では明らかにすることができない基礎的理論的問題について、講師を招いて討議する。例えば、現象学的研究の成果は普遍性をもちうるか、それは量的研究方法の成果とどのように違うのか、また現象学的研究の成果をどのように評価するかといった理論的問題について、国内外で看護の現象学的研究を実践している看護学研究者や現象学者を招いて共同討議を行う。

すべての研究会を一般公開にすると同時に、最終年度にシンポジウムを開催して

成果を問う。

4. 研究成果

5名以上の大学院生や研究者を招いて研究上の疑問に答えた。そのなかで明らかになったのは、初学者の多くはデータ分析で躓いているということであった。現象学的研究の場合、コード化やラベリングのような具体的手順の指示がないがゆえに、行き詰まってしまうことになる。これについては、多様な分析方法を示すとともに、分析の指標（身体性、時間性、制度など）を示すことによって、分析の手がかりを自ら発見するきっかけになることがわかった。その他、インタビューについても、どこまで事前に指示してよいか、何を聞けばよいかなど、迷いが多いことがわかった。

現象学的看護研究の教科書を共同研究者が分担執筆し、その原稿を共同討議することによって、修正を行った。成果は、松葉祥一・西村ユミ編『現象学的看護研究

理論と分析の実際』（医学書院、2014年）として出版した。看護と哲学の研究者が共同討議することによって、記述を明確にすることができただけでなく、看護研究者にとって難解な用語や考え方を明らかにすることができた。

池田喬（明治大）、石原孝二（東京大）、屋良朝彦（長野県立看護大）らの各氏を招いて、現象学的研究の成果は普遍性をもちうるか、その成果をどのように評価するかといった基礎的、理論的問題について討議した。看護研究のように具体的な事象から出発する研究の場合、必ずしも「普遍的」な結論を目指しているわけではなく、現象学的な看護研究が目指すのは「具体的一般

性」ではないかということ、この一般性が量的研究の場合と同じ基準（再現可能性）で評価できるか、できないとすればどのように評価するかという問題が残ることなど、現象学的看護研究にとって本質的な問題を検討することができた。

最終年度の2014年12月21日、東京大学本郷キャンパス 法文2号館において、科学研究「ケアの現象学的具体的展開と組織化」（代表者、榊原哲也、基盤研究(B)、24320004）と共催で、一般公開の研究集会「ケアの現象学的研究 方法と実践」を開催し、のべ300人以上の参加者があった。

第1部「ケアの現象学的研究の実践」では、村上靖彦（大阪大学）が「精神看護の現象学」について、福田俊子（聖隷クリストファー大学）が「精神のソーシャルワーカーの経験」について、守田美奈子（日本赤十字大学）が「緩和ケアの現象学」について発表した。

第2部「ケアの現象学的研究の方法」では、榊原哲也（東京大学）が「現象学とは何か」について、松葉祥一（神戸市看護大学）が「方法としての現象学」について、西村ユミ（首都大学東京）が「事象から方法を選び取るとは」について、グレッグ美鈴（神戸市看護大学）が「他の質的研究との違い」について発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

松葉祥一、現象学者は普遍的真理の夢を見るか：メルロ＝ポンティの「事実的普遍性」、現代思想、査読無、41(11)、2013、pp.137 - 151

村上靖彦、透析室における「見える」も

の：看護師の語りの現象学的分析、大阪
大学大学院人間科学研究科紀要、査読有、
39、2013、pp.293 - 314

村上靖彦、ローカルでオルタナティブな
プラットフォーム：助産師 Eさんと現象
学的倫理学、現代思想、査読無、41(11)、
2013、pp.152 - 165

北尾良太ほか、回復期リハビリテーショ
ン脳卒中者が語る病い経験に関する研
究、日本看護研究学会誌、査読有、36(1)、
2013、pp.123 - 133

西村ユミ、「音」の経験と看護実践の編
成、現象学年報、査読無、(28)、2012、
pp.1 - 11

西村ユミ、前田泰樹、事象に示される通
りに：フィールドワークという実践、看
護研究、査読無、45(4)、2012、pp.400
- 408

西村ユミ、前田泰樹、時間経験と協働
実践の編成：急性期病棟の看護に注目し
て、看護研究、査読無、45(4)、2012、
pp.388 - 399

村上靖彦、抗がん剤の存在論：がん看護
専門看護師へのインタビューから、現象
学年報、査読無、(28)、2012、pp.23 -
32

〔書籍〕(計3件)

- 1) 松葉祥一・西村ユミ編、医学書院、現象
学的看護研究：理論と分析の実際、2014、
210
- 2) 西村ユミ、青土社、看護師たちの現象学、
2014、284
- 3) 村上靖彦、医学書院、摘便とお花見：看
護の語りの現象学、2013、401

〔口頭発表〕(計3件)

- 1) 松葉祥一、現象学的看護研究の可能性、
和歌山県立医科大学保健看護学会、招待
講演、2013年8月、和歌山県立大学
- 2) 西村ユミ、病棟の実践を身体化する構
造：新人看護師の経験に注目して、第23
回日本保健科学学会学術集会、2013年
10月、首都大学東京
- 3) 西村ユミ、医療実践における患者理解、
日本医学教育学会大会、招待講演、2013
年7月、千葉大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松葉 祥一 (MATSUBA, Shoichi)
神戸市看護大学・看護学部・教授

(2) 研究分担者

西村 ユミ (NISHIMURA, Yumi)
首都大学東京・健康福祉学部・教授
00257271

グレッグ 美鈴 (Gregg, Misuzu)
神戸市看護大学・看護学部・教授
60326105

村上 靖彦 (MURAKAMI, Yasuhiko)
大阪大学・人間科学部・准教授
30328679

本間 直樹 (HONMA, Naoki)
大阪大学・コミュニケーションデザインセ
ンター・准教授
90303990

三浦 藍 (MIURA, Ai)

梅花女子大学・看護学部・講師
10438252

北尾 良太 (KITAO, Ryota)
千里金蘭大学・看護学部・助教
30505095

(3) 連携研究者

河野哲也 (KONO, Tetsuya)
立教大学・教育学部・教授
60384715

亀井大輔 (KAMEI, Daisuke)
立命館大学・文学部・准教授
80469098

神田大輔 (KANDA, Daisuke)
立命館大学・文学部・非常勤講師
30469100